⑶③ 農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修（中南米現地）

中南米日系農業者から関心の高い土壌環境の改善について、日系農業者訪日技術研修「土壌コース」で訪問したヤマカワプログラムを実践する高林農園の高林優一氏を専門家として中南米に派遣し、農場での現場指導および講義を行った。

1）基本情報

期間	令和 6 年 1 月 19 日～2 月 7 日（日本国内移動含む）
場所	コロンビア カリ、サルサル、アルメニア ブラジル ペルナンブコ州ペトロリーナ、サンパウロ州イビウナ、パラナ州マウアダセーラ パラグアイ イグアス移住地
専門家	高林 優一（高林農園）
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、コロンビア、メキシコ、エクアドル
参加者	合計：288 名（ブラジル 190 名、アルゼンチン 5 名、パラグアイ 21 名、コロンビア 65 名、メキシコ 3 名、エクアドル 4 名）
内容	- テーマは土壌環境の改善 - 本年度事業の日系農業者訪日技術研修「土壌コース」で視察したヤマカワプログラムは、微生物を活用した土壌環境の改善の方法を紹介し、中南米日系農業者から高い関心が示されている。 - 本年度事業および前年度の訪日研修「土壌コース」でヤマカワプログラムを学んだ農業者を中心に、中南米で実践されているヤマカワプログラム（微生物を活用した土壌環境の改善）の状況視察に、専門家がコロンビア・ブラジル・パラグアイを訪問し各所で現場指導をすると共に、第 2 回日系農業者等連携強化会議および農業現場視察に参加。

2）日程

日数	日にち	曜	内容	場所
1	2024/1/19	金	東京へ移動（新千歳-羽田）	
2	2024/1/20	土	日本出発（アメリカ経由）、コロンビア・カリ到着	カリ
3	2024/1/21	日	カリ現場指導	カリ
4	2024/1/22	月	コロンビア日本人会、サルサル現場指導	サルサル
5	2024/1/23	火	アルメニア現場指導、サンパウロへ移動	アルメニア
6	2024/1/24	水	サンパウロ到着、ペトロリーナへ移動	ペトロリーナ
7	2024/1/25	木	ペトロリーナ現場指導	ペトロリーナ
8	2024/1/26	金	イビウナへ移動	イビウナ
9	2024/1/27	土	イビウナ現場指導	イビウナ
10	2024/1/28	日	イビウナ現場指導、マウアダセーラへ移動	イビウナ
11	2024/1/29	月	マウアダセーラ現場指導	マウアダセーラ
12	2024/1/30	火	カスカベウへ移動	カスカベウ
13	2024/1/31	水	休日、イグアス移住地へ移動	イグアス
14	2024/2/1	木	イグアス移住地現場指導	イグアス
15	2024/2/2	金	第 2 回日系農業者等連携強化会議	アスンシオン
16	2024/2/3	土	カラグアタイ現場視察	アスンシオン
17	2024/2/4	日	資料作成	アスンシオン
18	2024/2/5	月	パラグアイ出発	アスンシオン
19	2024/2/6	火	機内	機内
20	2024/2/7	水	日本帰着、北海道へ移動（新千歳-羽田）	

3）参加者

①1 月 21 日コロンビア・カリ（26）

コロンビア(26)	生産者(18)、IMECOL 社(1)、日本料理店(1)、企業保険協会(1)、学生(5)

②1 月 22 日コロンビア・サルサル（20）

コロンビア(20)	生産者(10)、果樹技術アシスタント(3)、Comercial Agro Integral Andina 社(2)、Comercial Agro Insumos (1)、Syngenta 社(2)、コロンビア日系人協会(1)、EM(1)

③1 月 23 日コロンビア・アルメニア（19）

コロンビア(19)	生産者(16)、Agroser 社(1)、国土庁(1)、コロンビア日系人協会(1)

④1 月 25 日ブラジル・ペトロリーナ（26）

ブラジル(23)	Petrolina (17)、Juazeiro(4)、Barreiras (1) 、AMV コンサルティングサービス(1)
エクアドル(2)	田辺農園
メキシコ(1)	アカコヤグア江戸村協会(1)

⑤1 月 27 日ブラジル・イビウナ（66）

ブラジル(63)	イビウナ農協(11)、APPC 農協(2)、生産者(17)、その他企業 (19)、個人(14)
エクアドル(2)	田辺農園(2)
メキシコ(1)	アカコヤグア江戸村協会(1)

⑥1 月 29 日ブラジル・マウアダセーラ（99）

ブラジル(99)	Mauá da Serra（パラナ州）(25)、Londrina（パラナ州）(14)、Marilândia do Sul（パラナ州）(8)、Assaí（パラナ州）(5)、Faxinal（パラナ州）(3)、Guaíra（パラナ州）(3)、Piraí do Sul（パラナ州）(3)、Astorga（パラナ州）(2)、Apucarana（パラナ州）(2)、その他パラナ州 (12)、サンパウロ州(4)、Frei Rogério（サンタカタリーナ州）(3)、Curitibanos（サンタカタリーナ州）(1)、バイーア州(1)、リオグランデドスル州(2)、マトグロッソドスル州(2)、ゴイアス州(1)、Roraima（ロライマ州）(1)、Petrolina（ペルナンブコ州）(1)、その他(6)

⑦2 月 1 日パラグアイ・イグアス（32）

ブラジル(5)	その他(5)
アルゼンチン(5)	ハルディンアメリカ生産者組合(3)、AgroArgentinaJapon(2)
パラグアイ(21)	イグアス農協(14)、Villarrica(3)、A-Fines コンサルタント(1)、その他(3)
メキシコ(1)	アカコヤグア江戸村協会(1)

4）実施概況

- ヤマカワプログラムは主に光合成細菌を活用した土壌環境の改善により、農業生産性を高める栽培方法。光合成細菌、酵母エキス、土のスープ（硬盤層の土を煮た液）という3点セットによって、土壌中の硬盤層がなくなり団粒構造になった土に根が深く入るようになるというもの。
- 令和3年度のオンラインセミナーから始まり、令和4年度の若手日系農業者等を対象とした交流、そして訪日研修（アグリビジネス研修「土壌」）を経て、令和4年度に専門家派遣研修を実施しブラジルでの現場指導を行った。令和5年度事業においても継続して、日系農業者訪日技術研修「土壌コース」を実施し、これまでにヤマカワプログラムを学んだ農業者が実践している取組を視察し、現場でのフォローアップ指導を行う目的で、コロンビア・ブラジル・パラグアイを訪問し、現場指導を行った。
- ブラジルのペトロリーナではマンゴー畑の地面を水流で穴をあけて根の張り方を確認したところ、大きな違いが見て取れた。3か月前から3回ヤマカワプログラムのキットを散布した結果、根の広がりがよくなり、根の量が格段に多くなっていることが確認できる。硬盤層が抜けているため、根が縦に伸びている点も確認できる。ぶどうについても実のなり方に顕著な差が確認でき、ブドウの重量が60%増加した。
- ブラジルのイビウナでは、令和5年度の土壌コース研修生が帰国後にヤマカワプログラムの実証テストを行い、20か所すべてで土壌中の硬盤層の改善が確認できた。現時点までは硬盤層への効果確認という点でテストを行ったが、今後は野菜の生育への効果の点でも確認をしていく予定となっている。
- ヤマカワプログラムへの日系農業者の関心はさらに高まっていて、マウアダセーラでの現場指導には参加希望者が100名を超えたため、申込を締め切ることとなった。ヤマカワプログラムを学ぶWhatsAppグループはさらに人数が増えていて、より一層の展開拡大につながっている。一方で、ヤマカワプログラムの要である光合成細菌や酵母の生産は、令和4年度事業の研修参加者であるPedro Kanno氏に託されているものの、生産できる量には限りがある点、また他の中南米各国への供給にはブラジルでの商品登録など待たなくてはいけない点から、中南米全体での展開拡大にあたっては時間がかかることが見込まれている。
- 過年度事業の中で実施してきた農業技術の専門家派遣としては、例を見ないほど、日系農業者側の強い関心が示され、その実践効果も明確になっていることから、継続した取組を求める声も多く上がっている。令和3年度のオンラインセミナーから始まった微生物を活用した土壌環境改善の取組については令和4年度、令和5年度事業によって十分な成果を生み出すことができた。2024年には4月と8月に自費参加のヤマカワプログラムスタディーツアーが実施される予定となっている。

コロンビア・カリでの指導

大豆の生育比較

右側が非実施区、左側が実施区で大豆畑に緑が多く残る

ブラジル・ペトロリーナでの指導

ブラジル・イビウナでの指導

ブラジル・マウアダセーラでは 99 名が参加

パラグアイ・イグアス農協での指導

5）専門家所感

- コロンビアの大豆畑では、ヤマカワプログラムによる効果が明確に現れ、ヤマカワプログラム実施区では、茎は太くなり草丈は短くなり倒れづらくなることを確認できた。節間が短くなり、莢数が多くなることから、収量は増えることになる。根が深く入り根粒菌が多くなることにより、肥料を減らすことができる。上空写真では左側が実施区、右側が非実施区で、同時期の植え付けにもかかわらず、左側の実施区で緑が多く残っているのが見て取れる。根がよく張っていることにより、より水分を多く吸収でき、成長期間が長くなっていることがわかる。
- ブラジルのペトロリーナでは、マンゴーの木の根の生え方を確認し、ヤマカワプログラム実施区では根の量が格段に多く、硬盤層がなくなり縦方向に伸びていることが見て取れた。葉の色の淡いきれいな色をし、肥料と水分バランスがよく、光合成をしやすい環境になっていて、木全体の大きさがそろい、健康的に育っているのが目にとれた。非実施区は硬盤層が深さ約30cmと60cmのところにあり、根が横に広がっている。葉の色は濃い目で、潅水された肥料だけで育っていることがわかる。木の大きさがバラバラで、生育ムラがあった。
- ブラジルのイビウナでは、ヤマカワプログラムを2回散布した区画で、硬盤層がなくなり団粒が進んでいることが確認できた（手で握ったときに固まり、くずすとボロッと崩れる、土の感触で判断できる）。レタスの生育もよく、適度な土壌水分量になっていた。マウアダセーラでは参加希望者が特に多く99名が参加した。ヤマカワプログラム実施区を訪問し、硬盤層がなくなっていることを確認できた。団粒の仕組み、根の張り方、硬盤の見つけ方、土の取り方、散布方法などを説明した。
- パラグアイのイグアス移住地は、まだヤマカワプログラムに取り組んでいない状況であったため、基本的なところから講義で説明した。大豆農場での効果が上がることに期待する。
- ヤマカワプログラムを実践している区画では、良い成績が顕著に出ていて、処理区と未処理区の差が歴然となっていた。日本の他の農法では対応できない、面積の広さやコストの面からも、地球再生を目指すヤマカワプログラムは、持続的農業に良い影響をもたらすものと考える。

6）参加者所感

- 非常に興味深く、イノベーティブかつ重要なプログラムであり、土壌の劣化に対する対策として、安価であり硬盤層を取り除くのに非常に有効な取り組みであると考える。土壌の改善により、生産性の向上につなげたい。
- 今回の学びの機会を提供してもらえたことは大変ありがたかった。一方で、今回の機会でヤマカワプログラムのキットである光合成細菌や酵母を提供してもらえたらなおよかった。
- 現在はヘクタール当たり350～400レアルのコストをかけてサブソイラーで40cmの深さの土壌を攪拌し、289レアルをかけて25cmの深さを機械でかき混ぜている。ヤマカワプログラムはこれらのコストを削減させ、より長期間土壌の硬化を防ぐことができる方法である。

- ペトロリーナでの実践結果は非常にポジティブな成果が上がり、農業者の考え方をより微生物の活用へ変えることができている。これ以上ないくらいの効果があり、農業者の受け入れも良好である。
- テストのためのヤマカワプログラムキット（光合成細菌、酵母）は受け取ったが、今後継続して入手するのはどういった方法になるのか。もしくは農場で培養をするのか。品質保証のある製品を購入するのが一般的。
- ヤマカワプログラムはエコで経済的なソリューションであり、土壌の硬盤層の減少や作物の生育改善に効果がある。これまでにも微生物の活用については勉強しているが、非常に興味深い取組だと思う。今回の学びの機会を提供してくれたことに心から感謝したい。
- イグアスの大地がさらに素晴らしくなってもらいたい。また日本の素晴らしいプログラムがこちらで根を張ることに期待している。
- 土壌のことをよく知ることができた。物理的・化学的・生物的な土の組成を知り、そのバランスを整えることが健康的な作物を育てることに重要。土を柔らかくすることで、植物の根が長く伸びて、よりよく栄養を吸収できるようになり、健康的に生育して病害虫に対して強くなる。遠くからではあったが参加できて本当によかった。健康的な食べ物を求める人は一層増える傾向にある。

7）ヤマカワプログラムの中南米展開

以下にヤマカワプログラムの中南米展開の現状を整理する。

①ヤマカワプログラム概要

土壌中に硬盤層 [1]という植物の根が通らない硬い層が形成されることは日本国内だけでなく、中南米でも農業の大きな課題となっている。ヤマカワプログラムは山川良一氏が 2008 年頃から考案した農法で、光合成細菌・酵母・土のスープという 3 点セットを 1000 倍の水に混ぜて、農場に散布することで、硬盤層を軟らかくする（破砕）ことができるとされている。微生物の働きにより、土が団粒構造になって水はけがよくなり、作物の根が土の奥深くまで入り込むようになり、より多くの栄養を吸収できるようになる。土の中の微生物が活発になり、山の土の状態に近くなる。その結果として、作物の生産性が向上すると共に、化学肥料の使用減少、病気への耐性、味・日持ちの向上など、様々な効果を農業者自身が実感し、北海道を中心に広がっていった。さらに現代農業に掲載されて全国的に知られるようになり、十勝農業改良普及センターが実証試験を行い、3 点セットの散布によって、硬盤層の改善（硬盤層を突破する根の増加）が確認され、ジャガイモのソウカ病は 40%減少し、イモ数の増加によって収量が 4%増加した。[2]

現代農業 2012 年 10 月掲載

現代農業 2014 年 10 月掲載

現代農業 2014 年 3 月掲載

②中南米への拡大

中南米へ拡大していった発端として、ブラジルの微生物資材事業者の Pedro Kanno 氏やイビウナ農業者の Masami Yoshizumi 氏の間でヤマカワプログラムの講演の Youtube 動画を閲覧して興味を持ったことに始まる。令和 3 年度の本事業にオンラインセミナーのテーマとして要望があがり、令和 3 年 12 月にオンラインセミナーを実施したことをきっかけとして、中南米の多くの日系農業者が知ることとなり、その後も以下に示す経緯によって、本事業の中でヤマカワプログラムを研修・セミナーのテーマとして取り扱い、令和 5 年度事業の専門家派遣研修ではブラジルのマウアダセーラでの講演に 100 名近くが集まるほど、多くの人がヤマカワプログラムによる土壌環境の改善に注目している。本専門家研修にはエクアドルのバナナ生産企業（田辺農園）もブラジルのペトロリーナとイビウナでの行程に費用自己負担で同行した。現在は、ブラジルの Pedro Kanno 氏が培養するヤマカワ 3 点セットを基に、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、コロンビア、メキシコ、エクアドル等でヤマカワプログラムが取り組まれている。

[1] 耕盤層と書く場合もある。農業雑誌「現代農業」では耕盤層という記載。

[2] 現代農業 2014 年 3 月号, 182 ページ

③本事業での実施経緯

本事業の中では令和 3 年度のオンラインセミナーを契機として、以下の取組を行った。

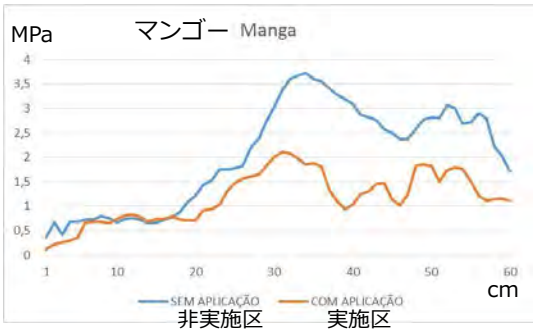
2021 年 12 月 9 日　オンラインセミナー「土壌管理」　55 名参加 ブラジル日系農業者の強い希望によりセミナーを実施。ヤマカワプログラムを実践したいブラジル農業者を中心に SNS グループを作り情報交換が開始する。	
2022 年 9 月 7 日　第 1 回若手農業者交流会議　61 名参加 ヤマカワプログラムのブラジルでの実践している事例をピラールドスルで視察し、実践的な情報交換を進める。	
2022 年 10 月 20 日～11 月 10 日　日系農業者訪日研修「土壌」　10 名参加 中南米から 10 名が研修に参加し、ヤマカワプログラム含む、日本の農業分野の取組を視察。Pedro Kanno 氏は帰国後にヤマカワプログラム創始者の山川良一氏から光合成細菌の培養方法を教わり、ブラジルで培養を開始し、近郊の農業者への配布を翌年に開始。	
2022 年 11 月 1 日　オンラインセミナー「土壌管理」　61 名参加 訪日研修と合わせてオンラインセミナーを開催し、ヤマカワプログラム創始者の山川良一氏へ疑問点を質問する形式での講義	
2023 年 1 月 26 日～2 月 9 日　専門家派遣研修「土壌環境改善」　106 名参加 ヤマカワプログラムを実践する農業者である高林専門家がブラジルのピラールドスル、モジダスクルーゼス、ロンドリーナを訪問し、ヤマカワプログラムの実践方法を指導。	
2023 年 2 月 4 日　第 2 回若手農業者交流会議　43 名参加 ブラジル・モジダスクルーゼスでの高林専門家の講義に合わせて、日系農業者等連携強化会議に参加した各国農業者が現場指導を受ける。	
2023 年 8 月 1 日～8 日　サマースタディーツアー 2023　17 名参加 本事業とは別の動きとして、自費でヤマカワプログラムを学びたいという有志 17 名がブラジル・コロンビアから参加し、ヤマカワプログラム実践農家と山川良一氏を訪問。	
2023 年 8 月 14 日　ウェビナー「ヤマカワプログラムスタディーツアー報告会」63 名参加 ヤマカワプログラムスタディーツアーの実施報告を主として、微生物による土壌環境改善に関する知識の共有、日系農業者訪日技術研修「土壌コース」参加者の事前学習を目的に実施。	
2023 年 9 月 30 日～10 月 20 日　日系農業者訪日技術研修「土壌」　6 名参加 中南米から 6 名が来日し、ヤマカワプログラムの実践事例を含め、日本の農業分野の取組を視察。帰国後に地域生産者への報告・指導を行い、各地で実証実験に取り組む。	
2024 年 1 月 19 日～2 月 7 日　専門家派遣研修「土壌環境改善」　288 名参加 前年度に継続し、ヤマカワプログラムを実践する農業者である高林専門家がコロンビア・ブラジル・パラグアイを訪問し、ヤマカワプログラムの実践方法を指導。	

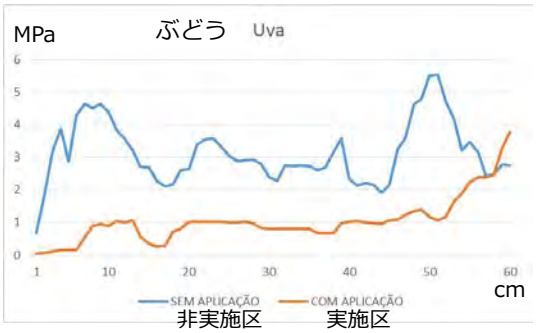
④中南米での実証実験の事例

ブラジル・バイーア州ジュアゼイロの大久保農場（Sítio Okubo）ではマンゴーとぶどうの畑に灌水施肥（ファーティゲーション）システムを通じて、ヤマカワプログラムの実証実験を実施した。15 日間隔で合計 4 回の散布を行い、土壌硬度の測定を行った。

土壌の硬度は一般に硬度計で測定した際、抵抗値が 1.5MPa（メガパスカル＝圧力の単位）以上になると根の伸長が阻

害され、2.5MPa 以上になると根がほとんど入らないとされている [3]。下記のグラフは土壌硬度計での測定結果で、青線がヤマカワプログラム非実施区、赤線がヤマカワプログラム実施区を示す。マンゴー農場の場合、非実施区では深さ 30cm 付近で 3.5Mpa の最大値を記録し、その後も 2Mpa 以上の値であったが、ヤマカワプログラム実施後は深さ 30cm 付近で 2Mpa の最大値となるものの、ヤマカワプログラム実施によって大きく硬度が減少したことが確認できる。
ぶどう農場の場合には、非実施区では深さ 10cm 前後の地表面で 4.5Mpa を記録し、深さ 50cm で 5.5Mpa の最大値を記録した。ヤマカワプログラム実施区では明らかな改善が見られ、深さ 50cm まで 2Mpa 以下へと改善された。





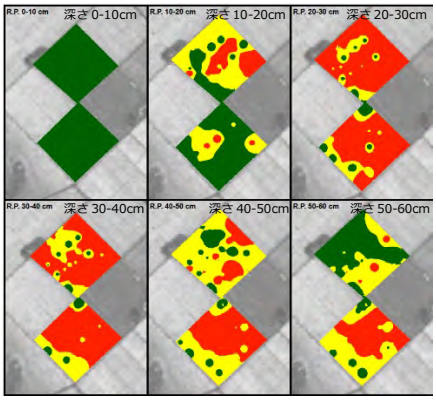
ブラジル・ペトロリーナでは専門家訪問時にマンゴーの木の根元を高圧ジェット水流で穴をあけ、根の張り方を確認した。非実施区（各写真左側）と実施区（各写真右側）を比較すると、実施区では根の量が増加し、硬盤層がなくなったことで下向き（縦向き）の根の量が増えていることが観察できた。またマンゴーの葉では、非実施区では葉の色にムラがあるものの、実施区では葉の色が揃っていて光合成がうまくできていることが見て取れた。

ペトロリーナでは、ぶどうの実のなり方に顕著な差が確認でき、実施区では同時期のぶどうの重量が 60%増加した（右写真）。

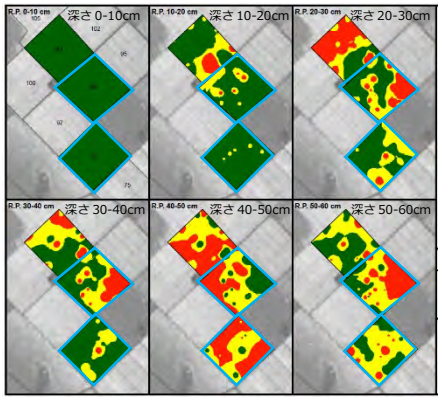
バナナ農場でも硬度計測定結果によると土の密度が下がって土壌が軟化したことがグラフから確認できた。土壌の団粒化が進んでいることにより、水はけがよくなって水たまりがなくなった結果、農場管理者によれば蚊の数が減少し、葉の勢いが増したことが観察された。

ブラジル・バイーア州リアシャオンダスネベスのバナナ畑でも、土壌硬化の改善が明らかになった。次に示す図の通り、左のヤマカワプログラム実施前と比較し、右の実施 40 日後では、赤（2.0Mpa 以上）が減少したことが確認できる。

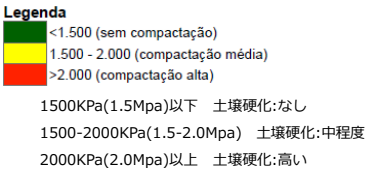
[3] 農研機構, 診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル, 2020 年



ヤマカワプログラム実施前



実施 40 日後（比較対象は青枠、1 区画追加された）



その他の実施結果を以下に示す（第 2 回日系農業者等連携強化会議で発表）。

Andres Kuratomi （コロンビア、FruitAndes 社）

3 つの区画に分けて、以下の方法でヤマカワプログラムの試験を実施。
①タヒチライム：通常、さとうきび：通常
②タヒチライム：土のスープを散布、さとうきび：土のスープ＋コンポスト 5t
③タヒチライム：土のスープ＋EM1、さとうきび：土のスープ＋コンポスト 10t

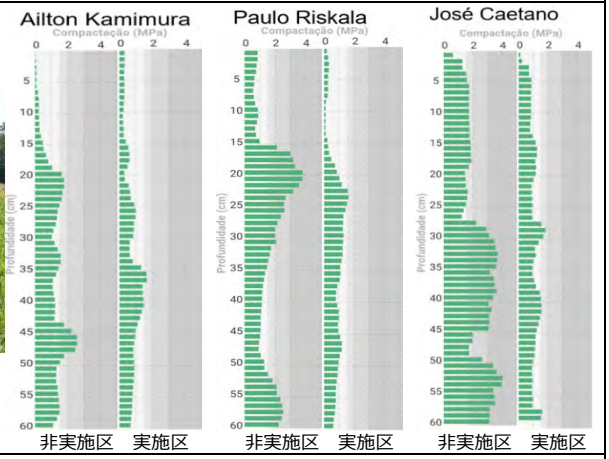
結果

	タヒチライム畑の硬盤層の深さ（cm）			さとうきび畑の硬盤層の深さ（cm）	
測定日	2023/11/30	2023/12/26	2024/1/22	2024/1/17	2024/1/24
区画①	17.5	17.5	13.9	43.0	43.0
区画②	17.5	23.5	22.3	43.3	49.3
区画③	17.5	21.6	16.2	44.1	43.9

土のスープを散布した区画②では大きな変化が現れ、土壌中の硬盤層が 17.5cm から 23.5cm となり、土壌の改善効果を確認できた。
（ヤマカワプログラム 3 点セットの光合成細菌や酵母がコロンビアで入手できないため、③では EM1 を代替使用）

Milton Yasuda （ブラジル、イビウナ農協 ）

サンパウロ州イビウナ市周辺の 20 か所の農場でヤマカワプログラムの 3 点セットの散布を実施し、結果として、20 か所全ての場所で土壌の改善（硬盤層の破砕）が確認できた。
右図はヤマカワプログラムの非実施区（左）と実施区（右）の土壌硬度計の測定結果を、3 農場で比較したもの。左右で比較し、実施後の右側は土壌の密度が低くなっており、硬盤層の改善に明らかな効果が出ていることが確認できた。



Martin Nomura （メキシコ、アカコヤグア江戸村協会）

ヤマカワプログラムの実践のため、地域の農業生産者をほぼ一軒一軒訪問した。写真は 36 ヘクタールの農場でマンゴスチンを生産している Suzuki さん一家。その農場で土壌を掘り、35cm の深さに硬盤層を確認した。ヤマカワプログラムの土のスープを散布し、8 日後に再びその場所で金属棒を指したところ、深さ 35cm の硬盤層がなくなっていたことを確認できた。

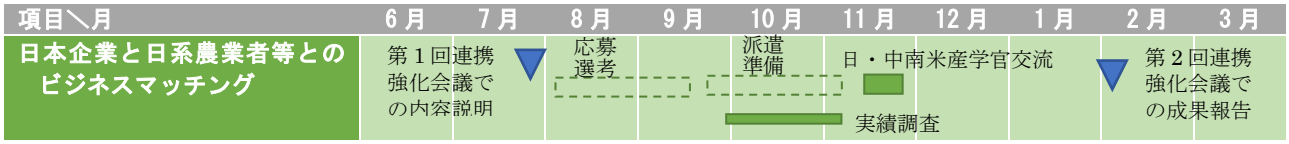
(4) 日本企業と日系農業者等とのビジネスマッチング

我が国の食料安全保障の確保及び農林水産物・食品の輸出促進の観点から、我が国の農林水産業・食産業関係者等と日系農業者等とのビジネスマッチング等を以下の通り実施する。

①農林水産業・食産業分野における日・中南米産学官交流のための招へい事業
②ビジネス交流の実績調査

(4)① 農林水産業・食産業分野における日・中南米産学官交流のための招へい事業

農林水産業・食産業関係者等と日系農業者等とのビジネスマッチング等を以下の内容で実施した。日系人社会に関わりのある農業・食産業関係者等（直接農業に従事する者に限らない）を中南米各国から 10 名招へいした。



a. 募集方法

募集要項を日本語・ポルトガル語・スペイン語の 3 か国語で作成し、事業ウェブサイト上に掲載した。日系農業者訪日技術研修と同様に、募集は 8 月 1 日の第 1 回日系農業者等連携強化会議から開始し、9 月 3 日に締め切った。提出書類は応募フォームと想定する日本企業とのビジネスプラン。ビジネスプランの作成のため、募集期間は研修事業よりも長く 4 週間半とした。

b. 応募人数

10 名の人数枠に対して合計で 20 名の応募があり、倍率は 2 倍であった。応募者の内訳は 20 名中、年齢別で 20 代：1 名、30 代：2 名、40 代：5 名、50 代：10 名、70 代：1 名、未記入：1 名で、世代別で 1 世：3 名、2 世：5 名、3 世：9 名、4 世：1 名、非日系：1 名、未記入：1 名であった。分野としては農協・農業生産企業 8 名、食品企業 5 名、研究機関 2 名、その他 4 名。国別は下表の通り。

人数枠	応募数	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	ﾊﾟﾗｸﾞｱｲ	ﾎﾞﾘﾋﾞｱ	ﾍﾟﾙｰ	ｺﾛﾝﾋﾞｱ	ﾒｷｼｺ	ｳﾙｸﾞｱｲ
10 名	20 名	9 名	1 名	2 名	2 名	2 名	1 名	2 名	1 名

c. 参加者の選考

- 日本企業とのビジネスというよりも、自社企業活動のための情報収集の応募者が多く、研究機関からの応募も日本市場の動向調査のような内容であった。想定する日本企業とのビジネスの商流は日本への輸出を希望する応募者が多く 7 件、日本からの輸入が 2 件であった。
- 応募者多数であったため、一次評価と二次評価の二段階で選考を実施した。一次評価は書類審査とし、事業実績や志望動機、ビジネスプランの内容で評価した。応募書類の不備があった 1 名を除く、計 19 名に対して二次評価の面接を実施した。面接では、ビジネス状況や本気度を口頭で確認した。
- 評価基準は、1.活動内容（実効性・裁量）や 2.目的意識（志望動機、ビジネス形式、ビジネスプランの明確さ）、3.その他（ビジネス規模・実績年数）の 3 つの観点から 30 点満点で設定し、評価結果を点数化した。評価においては、日本と中南米でのビジネスに繋がる見込みを重視した。最終的に農林水産省との協議の上で産学官交流参加者を決定し、9 月 15 日までに通知した。

1）基本情報

日程	令和 5 年 11 月 10 日～11 月 25 日（16 日間）
場所	東京都、福岡県
参加者	10 名（ブラジル 4 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 1 名、ボリビア 1 名、ペルー2 名、メキシコ 1 名）

内容	- 農業・食産業分野において、日本と中南米における明確なビジネスプランを有する人が、そのビジネス実現のための商談・調査を行う。 - Food Style 九州（フードビジネス展示会）の訪問、産学官交流会（福岡、東京）を通して、日本の農業・食産業関係企業、公的機関等との交流を図る。

2）参加者

No.	性別・年代	国	組織	業務
1	女性 30 代	ブラジル	Fresco Alimentação Consicente 社	代表
2	男性 50 代	ブラジル	サンジョアキン農協	海外営業
3	男性 50 代	ブラジル	サンヴェルジェ食品飲料販売	営業部長
4	男性 50 代	ブラジル	Hidro Sabor Horticultura 社	営業部長
5	女性 50 代	アルゼンチン	AgroArgetninaJapon	食品ロジスティクスアドバイザー
6	男性 50 代	パラグアイ	A-Fines コンサルタント	代表
7	男性 70 代	ボリビア	ISHIMA 社（伊島）	代表取締役会長
8	男性 40 代	ペルー	ARA Export 社	営業部長
9	男性 50 代	ペルー	ペルー日系美食協会	代表
10	女性 40 代	メキシコ	ラフェクトゥオシータ機能性食品	代表

3）参加者ビジネスプラン

ブラジル Fresco Alimentação Consicente 社
- 蕎麦・麦・オーツ麦・ホップ・とうもろこしの輸出
- 鮮度保持技術の導入

ブラジル サンジョアキン農協 SANJO
- リンゴ果汁 100%炭酸ジュース
- ワイン、カルヴァドス、シードルなど

ブラジル サンヴェルジェ食品飲料販売
- 和梨の蒸留酒
- エキゾチックフルーツのリキュール

ブラジル Hidro Sabor Horticultura 社
- 植物工場（屋内水耕栽培用）機材の購入
- プロポリス販売・市場開拓

アルゼンチン AgroArgentinaJapon 社
- 日本とアルゼンチン（ラテンアメリカ）における食品貿易・流通の調査

パラグアイ A-Fines コンサルタント
- 南米進出に際するコンサルタントサービスの提供
- パラグアイ食品輸出の調査（ステビア等）

ボリビア ISHIMA 社（伊島）
- 大豆油・ハイプロテイン大豆粕の日本への輸出
- 沖縄県とボリビア・オキナワ移住地でのビジネス
- 天空の塩：ウユニ塩湖の塩

ペルー ARA Export 社
- マンゴー・アボカド・ブルーベリー・ブドウの輸出。
- アボカド種子油等の市場調査

ペルー日系美食協会 AGN
エスキベル農畜産生産者組合
- 日本食料理店用の食品の輸入
- 日本に将来的に輸出できる作物の調査（蒟蒻・ルクマ等）

メキシコ LAffectuosyta Alimentos Funcionales 社
- 日本の機能性食品（発酵食品など）の輸入
- 共にメキシコビジネスに取り組むパートナー

4）日程

日程（共通）

日数	日にち	曜	内容	場所
1	2023/11/10	金	中南米出発	
2	2023/11/11	土	機内	
3	2023/11/12	日	日本到着	東京
4	2023/11/13	月	オリエンテーション	東京
5	2023/11/14	火	福岡へ移動、FOOD STYLE 九州	福岡
6	2023/11/15	水	FOOD STYLE 九州	福岡

7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡	福岡
8	2023/11/17	金	各自行動	各自
9	2023/11/18	土	各自行動	各自
10	2023/11/19	日	各自行動	各自
11	2023/11/20	月	各自行動	各自
12	2023/11/21	火	各自行動	各自
13	2023/11/22	水	産学官交流会 in 東京（農林水産省）	東京
14	2023/11/23	木	報告書作成・参加者活動報告	東京
15	2023/11/24	金	日本出発	
16	2023/11/25	土	中南米帰着	

日程（各自行動）

①Fresco Alimentação Consicente 社（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
8	2023/11/17	金	大阪へ移動、株式会社ジーブリッジ	大阪
9	2023/11/18	土	休日	岐阜
10	2023/11/19	日	休日、東京へ移動	岐阜
11	2023/11/20	月	豊通食料株式会社、株式会社 三忠	東京
12	2023/11/21	火	ボンペックスジャパン、株式会社イマイ	東京

②サンジョアキン農協（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
4	2023/11/13	月	Precision Sheet Metal Engineering	東京
8	2023/11/17	金	大阪へ移動	大阪
9	2023/11/18	土	青森へ移動	青森
9	2023/11/19	日	黒石りんご祭り	青森
11	2023/11/20	月	アップルアンドスナック株式会社	青森
12	2023/11/21	火	りんごワーク研究所、りんご生産者、東京へ移動	青森

③サンヴェルジェ食品飲料販売（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
4	2023/11/13	月	Cachaça Council Japan	東京
8	2023/11/17	金	Angelico Rocha Trading、東京へ移動	福岡
9	2023/11/18	土	細田木材工業株式会社	東京
10	2023/11/19	日	築地市場	東京
11	2023/11/20	月	Allegresse、荒井商事株式会社、株式会社イマイ	東京
12	2023/11/21	火	ヨドバシ酒店、目白田中屋、The SG Club、Bar Blen blen blen	東京

④Hidro Sabor Horticultura 社（ブラジル）

日数	日にち	曜	内容	場所
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、東京へ移動	福岡
8	2023/11/17	金	株式会社富士見養蜂園	東京
9	2023/11/18	土	プロポリス代理店候補の都内在住友人と営業活動	東京
10	2023/11/19	日	休日	東京
11	2023/11/20	月	株式会社ベジ・ファクトリー、MIRAI 株式会社	埼玉、千葉
12	2023/11/21	火	株式会社アグリ王、アグリビジネス創出フェア、産業交流展 2023	神奈川、東京
13	2023/11/22	火	株式会社スプレッド	東京

⑤AgroArgentinaJapon 社（アルゼンチン）

日数	日にち	曜	内容	場所
3	2023/11/12	日	元食品関係部門ジャーナリスト面談、食品コンサルタント面談	東京
6	2023/11/15	水	博多埠頭視察、FOOD STYLE 九州	福岡
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、愛知へ移動	愛知
8	2023/11/17	金	まるや（八丁味噌）、平松食品（佃煮）、愛知県食品流通課・輸出研究会	愛知
9	2023/11/18	土	木村農園（金時しょうが）	愛知
10	2023/11/19	日	広島平和記念公園、インバウンド関係者	広島
11	2023/11/20	月	広島産業振興機構海外ビジネス支援センター	広島
12	2023/11/21	火	豊洲市場、ワイン専門家、スペイン料理店、株式会社イマイ	東京
3	2023/11/12	日	元食品関係部門ジャーナリスト面談、食品コンサルタント面談	東京

⑥A-Fines コンサルタント（パラグアイ）

日数	日にち	曜	内容	場所
8	2023/11/17	金	鹿児島へ移動、梶原家（米生産者）、桜島の道の駅、東京へ移動	鹿児島
9	2023/11/18	土	休日	東京
10	2023/11/19	日	休日	東京
11	2023/11/20	月	アグリビジネス創出フェア、産業交流展 2023	東京
12	2023/11/21	火	栃木県開拓農協、養豚場、在日パラグアイ大使と会食	栃木

⑦ISHIMA 社（伊島）（ボリビア）

日数	日にち	曜	内容	場所
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、沖縄へ移動	福岡、沖縄
8	2023/11/17	金	JICA 沖縄、沖縄企業 4 社、渡辺氏（熊本）	沖縄
9	2023/11/18	土	沖ハム、琉球大学	沖縄
10	2023/11/19	日	休日	沖縄
11	2023/11/20	月	かねひでグループ、リュウボウ、沖縄県庁商工課、御菓子御殿	沖縄
12	2023/11/21	火	沖縄豆腐油揚商工組合、東京へ移動	沖縄、東京

⑧ARA Export 社（ペルー）

日数	日にち	曜	内容	場所
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、東京へ移動	福岡、東京
8	2023/11/17	金	株式会社アスク	東京
9	2023/11/18	土	休日	東京
10	2023/11/19	日	休日	東京
11	2023/11/20	月	双日株式会社	東京
12	2023/11/21	火	伊藤忠商事株式会社、株式会社ファーマインド、兼松食品株式会社	東京
13	2023/11/22	水	豊田通商株式会社	東京

⑨ペルー日系美食協会／エスキベル農畜産生産者組合（ペルー）

日数	日にち	曜	内容	場所
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、東京へ移動	福岡、東京
8	2023/11/17	金	日本こんにゃく協会、鈴茂器工株式会社	東京
9	2023/11/18	土	休日	東京
10	2023/11/19	日	休日	東京
11	2023/11/20	月	アグリビジネス創出フェア、産業交流展 2023	東京
12	2023/11/21	火	石井メイドオリジナル（こんにゃく）、こんにゃくパーク	群馬

⑩ラフェクトゥオシータ機能性食品（メキシコ）

日数	日にち	曜	内容	場所
4	2023/11/13	月	株式会社かねひで総合研究所（沖縄）	東京
6	2023/11/15	火	FOOD STYLE 九州（千代乃園茶園）	福岡
7	2023/11/16	木	産学官交流会 in 福岡、静岡へ移動	福岡、静岡
8	2023/11/17	金	松下茶園、リンクフード株式会社	静岡、大阪
9	2023/11/18	土	市野屋豆腐店、吉野家豆腐店	埼玉
10	2023/11/19	日	醤油工場	埼玉
11	2023/11/20	月	日本ケフィア、アグリビジネス創出フェア、産業交流展 2023	東京
12	2023/11/21	火	天草納豆工場、佐野みそ（亀戸）	東京
13	2023/11/22	水	ゆあさ農園	オンライン

5）産学官交流会

来日した中南米事業者 10 名と日本の産学官の交流のため、産学官交流会を福岡と東京で開催した。

①産学官交流会 in 福岡

日程	令和 5 年 11 月 16 日（木）13:00-16:00
場所	JR 博多シティ 9 階会議室(2)
参加者	- 日本企業12社 - 中南米事業者10社
備考	- 九州の企業を中心に12社が申し込み、対面式参加は4社、オンライン参加は8社。申込時に日本企業が希望した中南米事業者との商談の機会を設けた。 - JICAとの共催

日本企業

No.	企業名	No.	企業名
1	株式会社ジャパンフードネットワーク	7	株式会社シンメイ
2	合同会社SAKEBOYS	8	パタテ市役所
3	那覇青果物卸商事業協同組合	9	EF Polymer 株式会社
4	株式会社九州メディカル	10	株式会社かねひで総合研究所
5	LUCUMAPIE	11	江田畜産株式会社
6	株式会社フルーツマルシェ	12	農業生産法人ANDES farm合同会社

※No.1～4 は対面式参加、他はオンライン参加

②産学官交流会 in 東京

日程	令和 5 年 11 月 22 日（水）13:00-17:00
場所	農林水産省 7 階講堂及び第 5 会議室（対面式のみ）
参加者	- 日本企業25社 - 関係機関11団体（JETRO、研究機関、在京大使館、農林水産省） - 中南米事業者10社
備考	- 関東の企業を中心に25社が参加、さらにJETROや大使館等の関係機関も参加。申込時に日本企業が希望した中南米事業者との商談の機会を設けた。

日本企業

No.	企業名	No.	企業名
1	株式会社グローバルメディア	14	一般社団法人ごろ夢
2	エコパラダイス株式会社	15	株式会社光健
3	株式会社ケツト科学研究所	16	株式会社パデコ
4	ブラジルフードサービス	17	ハウス食品グループ本社株式会社
5	株式会社Arch Consulting	18	株式会社シンメイ
6	株式会社ウニードス	19	株式会社農業サポートセンター
7	合資会社イデア・ネットワーク	20	室町ケミカル
8	国土防災技術株式会社	21	住友ベークライト株式会社
9	株式会社クラレ	22	株式会社ファーマインド
10	有限会社カチャマイジャパン	23	株式会社泰雅
11	株式会社ヴォークス・トレーディング	24	ひげた食品株式会社
12	株式会社グローバルフィッシュ	25	日産スチール工業株式会社
13	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社		

関係機関

No.	企業名	No.	企業名
1	JETRO横浜	7	在日パラグアイ大使館
2	JICA	8	在日アルゼンチン大使館
3	農林水産政策研究所	9	慶應義塾大学大学院商学研究科

4	在日ペルー大使館商務部	10	Mega Brasil／Cachaça Council Japan
5	在日ブラジル大使館	11	農林水産省
6	在日メキシコ大使館		

6）実施概況

- 外食・中食・小売業界に向けた商談展示会であるFOOD STYLE九州（11月14日、15日）の視察を中心に日程を組むと共に、日程後半に各自行動の日を設けて、各自で希望する訪問先をセッティングし（必要に応じて事務局がサポート）、より個別のニーズに合った訪日事業とした。
- 参加者として農業・食産業に関係のあるビジネス関係者・自治体職員・議員・メディア関係者など、幅広いバックグラウンドを想定はしていたものの、実際の参加者は食品関係のビジネス関係者となった。日本から購入・輸入したいビジネスプランの参加者は3名で、他は日本に販売・輸出したい希望を有していた。6か国から10名が参加。明確な商材（商品）が決まっている参加者は7名、可能性のある商材の情報収集を希望していた参加者は3名であった。
- 産学官交流会を福岡と東京の2回開催した。福岡開催はオンラインでの遠隔参加を含めることで、より多くの企業が参加できるようにした。一方で同じ会議室内で対面とオンライン商談を同時に行うことは、通信や音声の
- ブラジルの蕎麦については、日本の商社側からブラジル産蕎麦への関心が示されており、提供した蕎麦サンプルの検査を商社側が行い一定の基準は満たしていたものの、残留農薬や農薬管理方法について確認するなど、商談が継続中。
- 植物工場設備の導入については、日本の植物工場企業とブラジルでの設置に向けて商談を継続しており、仕様・設計の検討などで進行中である。
- ペルーの冷凍マンゴー等の輸出事業に対しては、日本の複数の大手商社から関心が示された。令和4年度事業でペルー参加者が訪日した際に商談を行った日本企業とは約1年間の商談・視察・書類手続き等を経て、今回の訪日時にペルー産冷凍マンゴーの輸出で正式な発注・成約となった。最初のコンテナが1月中に出発し3月に到着予定。その他、別の商社からアボカドの発注があり5月にコンテナが発送予定で、さらに別商社とは冷凍アボカドとの商談が進行中。
- メキシコの機能性食品輸入については、発注した有機緑茶や有機紅茶をメキシコで受領し、今後の展示会で紹介して、レストラン等への販路開拓に取り組む。他の品目でも商談を継続中。
- 参加した中南米事業者の大半は日本に対して販売・輸出したい希望を有していたため、訪問先を見つけ出すのは容易ではなかった。日本から購入・輸入したいバイヤーが来日するほうが商談へと繋げやすい一方で、本事業では日系農業者、つまり生産したものを販売したい側の参加者が多いのは必然である。参加者内で取り扱う品目が共通している方が、運営側としては商談相手を集めやすいため、輸入希望や輸出希望、もしくは取り扱う品目を絞った上で、参加者を募集することが望ましいといえる。
- 大使館からはボリビアを除く、産学官交流参加者5か国の大使館が終盤の交流会に参加し、参加者との情報交換を行うことで、本事業でどのような中南米事業者を招へいしたかを示すことができたと共に、今後の課題・可能性で有益な交流ができたと考えられる。

7）参加者報告書（抜粋）

①Fresco Alimentação Consicente社 （ブラジル）
蕎麦の販売先の開拓では、有名な蕎麦生産者とのつながりや、蕎麦専用加工機器業者との接触ができ、今後契約へと発展する可能性がある。包装資材業者と枝豆やシイタケ用の鮮度保持資材についても、包装資材業者から情報を収集できた。

②サンジョアキン農協（ブラジル）
多数の日本企業と対面で交流することができて、商品の販売だけではなく、新しい技術や資材など様々な可能性に出会えた良い機会だった。りんご炭酸ジュースについても展示会で会った企業との商談を継続している。青森県では当組合のりんご炭酸ジュースは一般的な商品であったが、日本産と同等の品質であるということが確認できた。

③サンヴェルジェ食品飲料販売（ブラジル）
日本の蒸留酒輸入事業者とのコンタクトもでき、日本の特製飲料市場について、基本的な見識を得ることができた。商談した商社の方に当社商品を大変気に入ってもらえたため、今後はトライアルオーダーや日本での販売促進、価格・数量について商談を進めていく。

④Hidro Sabor Horticultura社（ブラジル）
今回商談を行った植物工場企業とのパートナーシップ提携について、今後協議をしていく。屋内水耕栽培システムの試験を行うため、ブラジルで採用する水耕栽培システムを比較・検討し、ビジネスプラン（見積）を確認して、話し合いを進めていきたい。

⑤AgroArgentinaJapon社（アルゼンチン）
食品の輸出入に関しては、検疫、食品衛生、農薬・抗生物質・添加物、表示ラベル、税制などの規制について知識は得ていたが、実践として、店舗での商品の陳列状況、ラベルの確認、食品表示上の問題について、情報を得ることができた。博多埠頭を訪問したことで、港の機能を確認し、倉庫料が東京と比較して安価であることから、南米からの輸送の際に検疫などでの遅延が起こっても比較的対応しやすい金額になることもわかった。

⑥A-Finesコンサルタント（パラグアイ）
日本では何十年も前からプロバイオティクスが使用されており、家畜の健康と品質の向上に役立っている。豚の飼料にプロバイオティクスを使用している農場では、臭いが軽減されていた。日本では非遺伝子組み換え飼料に高い需要があり、パラグアイの日系農業協同組合からの対日輸出について商機を見出した。米国およびカナダとの競合が必要。

⑦ISHIMA社（伊島）（ボリビア）
日本の消費者、あるいは生産者は品質証明について外国の食品と比較するとオーガニック認証やHACCPやISOなどの品質証明より「国産」であることを優先し信用していると思われる。日本の食の安全保障の面からも南米の日系人とのアグリビジネスの進展は必要不可欠と思われる。

⑧ARA Export社（ペルー）
日本で輸入商社8社と商談を行い、そのうちの4社とはすでに長期的な事業を見込んでいる。この4社のうち、1社についてはすでに本格的な生産を開始し、契約を締結している。農水省の事業に参加し、多くの商談の機会を得ることができた。日本で直接顧客に会うことによって、交渉の時間を短縮できただけでなく、当社の商品を紹介し、顧客と信頼関係を築くことができた。今後、日本市場で長期的なビジネスを展開していく上で、非常に有益であった。

⑨ペルー日系美食協会・エスキベル農畜産生産者組合（ペルー）
エスキベル農畜産生産者組合として、こんにゃく協会および生産者とコンタクトでき、今後栽培に取り組みながら、こんにゃく加工品を輸入し、ペルーでこんにゃく市場を開拓していく。ルクマという熱帯フルーツについても、商談した企業へのサンプル発送に向けて調整中。またペルー日系美食協会向けの輸入事業のため、飲食店向け機械・製品企業とコンタクトをとることができた。

⑩ラフェクトゥオシータ機能性食品（メキシコ）
有機緑茶・紅茶の企業、ケフィアの企業とは1～2ヶ月以内に提携（購入）できる見込みが高いと考えている。その他、梅干し、納豆、醤油、エンドウ豆製品などの企業とも、1年以内に提携（購入）を進めていきたい。すでに注文をした企業とは、通関のための発送ラベルや支払の手続きを進めていく。

(4)② ビジネス交流の実績調査

令和 4 年度事業では、平成 25 年度～令和 3 年度の事業で行ったビジネスマッチング等に参加した日本企業の動向調査を行い、中南米地域とのビジネスの状況を確認した。令和 5 度事業では、令和 4 年度でビジネスマッチングに参加した企業および中南米地域とのビジネスが進行中であった平成 25 年度事業参加企業を対象に調査を行った。

No.	企業	内容
1	青果物鮮度保持フィルム企業	令和 4 年度の中南米視察に参加。 商談したブラジル企業とは、手ごたえを感じて代理店となってもらえる可能性があったものの、サンプルテストで効果がはっきりと確認されなかったことで、商談は中断している。現時点で見込みはない。 その他に、日系農業者から紹介のあった企業にフィルム 800 枚を購入してもらい、ポテンシャルは感じてもらったものの、輸入関税の問題等で積極的になっていない様子。輸

		出代理店によれば、関税が商品価格の 40%ほどになり、先方が関税の高さのために渋ってなかなか受け取らず、引き取るまでに 1 か月程度の時間がかかった。
2	有機性廃棄物発酵処理企業	令和 4 年度の中南米視察に参加。 商談したブラジルのバストス地域鶏卵生産者協会とは、連絡は取り合っており、JICA ブラジルの助成金の活用を検討したものの採択されなかった。 パラグアイの前原農商とは定期的に意見交換しているものの、同社がコロナ禍に 2021～22 年が大きく赤字であったことが尾を引き、新たな設備の導入は現在は難しいとのことだが、スペインの設置施設の見学には意欲を示してくれているため、9 月の設置作業の際に打診する予定。
3	飲料企業	平成 25 年度の中南米視察に参加。 2013 年にブラジル・インテグラーダ農協を本事業で訪問し、その後の商談の結果 2015 年にオレンジ果汁の輸入となったものの、代理店経由の取引で中断していた。 令和 4 年度の動向調査の過程で再度マッチングの機会を 2023 年 3 月に設け、その後 2023 年 7 月にオレンジ果汁 800 トンが成約となった。9 月から毎月の輸入をして合計 800 トンの契約が 3 月の納品で終了。次期の契約も検討中で順調にいけば 4～5 月での契約になる見込み。世界情勢としてオレンジ果汁が逼迫気味で相場も上がっている。他社メーカーはオレンジジュース事業を縮小・中断している。そういった状況でもインテグラーダ農協から供給してもらうことができ、本事業のネットワークが活用された事例だと言える。

(5) 中南米現地におけるビジネスセミナーの開催

中南米地域における農業・食産業ビジネスの拡大のため、ブラジル・サンパウロで日本企業及び日系農業者等を対象としたビジネスセミナーを以下の通り開催した。

a. 募集方法

参加企業の募集には、以下の中南米組織や公的機関への周知協力依頼を行い、周知活動を行った。当初、渡航費用は企業側の負担として案内をしていたものの、応募企業がなかったため、渡航費用として 20 万円までを 2 社に対して事業費から負担することとした。

周知協力依頼先

中南米関連組織	ラテンアメリカ協会：メルマガ配信、HP 掲載 日本ブラジル中央協会：メルマガ配信 案内メール送信：日伯協会（神戸）、日本アルゼンチン協会、日本ボリビア協会、日本パラグアイ協会、日本ペルー協会、日本コロンビア友好協会
中南米商工会議所	案内メール送信：ブラジル日本商工会議所、リオデジャネイロ日本商工会議所、パラナブラジル日本商工会議所、在亜日本商工会議所、日秘商工会議所、日本コロンビア商工会議所、メキシコ日本会議所、在パラグアイ日本商工会議所
公的機関	近畿経済産業局：メルマガ配信、HP 掲載 九州経済産業局：メルマガ配信 JETRO 本部：メルマガ配信（農林水産・食品 Newsletter）、関連イベントでの資料配布 案内メール送信：中国経済産業局、九州農政局、中小機構（本部、近畿、中国、沖縄）、JETRO（熊本、埼玉、仙台、名古屋、新潟、神戸、沖縄） JICA 中南米部：民間連携調査団参加企業及び JICA 国内機関・在外拠点へ協力依頼
地方自治体	福岡アジアビジネスセンター：メルマガ配信、HP 掲載 47 都道府県及び関連機関 103 団体：案内メール送信
その他	GFVC 推進官民協議会：メルマガ配信 ラテンアメリカ進出協議会：記事掲載、B Venture Capital 関連 SNS 企業への案内：メール送信、展示会での資料配布

b. オンラインビジネスセミナーの開催

参加企業の募集と中南米ビジネス情報の提供を目的として、以下のオンラインビジネスセミナーを開催した。